基　本　項　目：誇りある豊かさ

実　施　項　目：ウチナーネットワークの継承・発展、多文化共生社会の構築

重点施策事業名：おきなわ国際協力人材育成事業（継続）

事　業　期　間：平成 25 年度～

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　交流推進課

1　事業の目的・内容

県内高校生の開発途上国等への派遣や、県内高校等で国際協力について学ぶ出前講座を実施し、国際協力の必要性を学び、グローバルな視点を持った、将来の本県の国際協力を担う人材を育成する。

2　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和6年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
おきなわ国際協力人材育成事業	27,896	1　おきなわ国際協力人材育成事業 ⑴国際協力レポーター事業 ・県内の高校生を国際協力レポーターとして開発途上国に派遣し、国際協力の現場を視察させ現地の若者等との交流を体験させる。 ⑵国際協力理解促進事業 ・県内の学校等で国際協力活動の経験者による出前講座を実施し、国際協力の必要性等の理解促進を図る。	27,813	1　おきなわ国際協力人材育成事業 ⑴国際協力レポーター事業 ・県内の高校生 16 名を国際協力レポーターとしてカンボジアに派遣し、国際協力の現場視察や現地の方との交流等を行った。 ⑵国際協力理解促進事業 ・離島を含む 20 校で、ＪＩＣＡ海外協力隊経験者等による国際協力に関する出前講座を実施した。 ① 期間：9～2 月 ② 参加者数：1,107 名	☆ 最終予算額 27,896 執行率 99.7% 不用額 83

3　事業の効果/課題

⑴　おきなわ国際協力人材育成事業

効果：　国際協力の現場の視察や、現地でのホームステイ等での交流を通して、グローバルな視点を持ち国際協力に対する興味や意識が高い若い人材の育成に寄与した。

出前講座については、参加者へのアンケート調査の結果、国際協力を必要と感じた生徒の割合が約 96%と高い数値になった。

課題：　派遣においては、過去の参加者からの意見を踏まえ、事前研修・事後研修の中で、国際協力についての理解を深め、国際協力を身近に捉えることができるようプログラムを組む必要がある。また、ＪＩＣＡや関係機関と連携し、外務省の渡航情報等海外の安全情報等の把握に努めるとともに、派遣国決定後も、現地の最新の情勢を踏まえて臨機応変に対応することも必要である。

　出前講座に関しては、比較的応募が少ない中学校へも情報発信を強化するとともに、学校へのアプローチを積極的に行う必要がある。

基　本　項　目：誇りある豊かさ

実　施　項　目：ウチナーネットワークの継承・発展、多文化共生社会の構築

重点施策事業名：世界のウチナーネットワーク強化推進事業（継続）

事　業　期　間：平成 29 年度～

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　交流推進課

1　事業の目的・内容

「世界のウチナーンチュの日」が 10 月 30 日と制定されたことを受けて、同日を世界中で沖縄に想いを馳せる象徴的な日として定着させ、ウチナーネットワークの継承・発展を一層効果的に進めるための取組を実施する。

2　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和6年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
世界のウチナーネットワーク強化推進事業	35,115	1　世界のウチナーネットワーク強化推進事業	33,357	1　世界のウチナーネットワーク強化推進事業	☆ 最終予算額 35,115 執行率 95.0% 不用額 1,758
	12,837	⑴世界のウチナーネットワーク継承・発展事業	12,837	⑴世界のウチナーネットワーク継承・発展事業 ・世界のウチナーンチュの日を中心にＷｅｂ、ＳＮＳ、ラジオ等で広報を実施した。 ・「くるちの杜 100 年プロジェクト in 読谷」で世界のウチナーンチュの日啓発イベントを実施した。 日時：10 月 14 日 場所：読谷村文化センターふれあい広場 来場者：1,100 名	最終予算額 12,837 不用額 0

	7,538	⑵レッツスタディー！ウチナーネットワーク事業	7,171	⑵レッツスタディー！ウチナーネットワーク事業 ・県内小中学校等を中心に移民歴史出前講座、指導者養成の講座を実施した。 ①出前講座受講者：860名 ②養成講座受講者：延べ48名	最終予算額 7,537 不用額 366
	10,445	⑶沖縄文化芸能指導者派遣事業	10,427	⑶沖縄文化芸能指導者派遣事業 ・４つの海外県人会に芸能指導を実施した。 指導先：①フェイエットビル沖縄県人会②ペンサコーラかりゆしぬ会③トロント球陽会	最終予算額 10,427 不用額 0
	4,295	⑸その他、事務費等	2,922	⑸その他、事務費等	最終予算額 4,314 不用額 1,392

３　事業の効果/課題

⑴　世界のウチナーネットワーク強化推進事業

効果：①「世界のウチナーンチュの日」のイベント実施後アンケートの結果、約 95%が世界のウチナーンチュの日に関する関心が高まったと回答した。加えて、Ｗｅｂアクセス数が 32,648 件となり多くの方に周知できた。

②受講者に対するアンケートの結果、約 89%が移民の歴史等に対して理解が深まったと回答した。

③派遣先の県人会におけるアンケートの結果、約 91%が沖縄の文化芸能に対する興味・関心が高まったと回答した。

課題：　10 月 30 日前後だけでなく、日常的に世界のウチナーンチュと繋がれる機会を増やし、世界のウチナーンチュの日の認知度向上に取り組む必要がある。

基　本　項　目：誇りある豊かさ

実　施　項　目：ウチナーネットワークの継承・発展、多文化共生社会の構築

重点施策事業名：次世代ウチナーネットワーク育成事業（継続）

事　業　期　間：昭和 44 年度～

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　交流推進課

1　事業の目的・内容

海外への情報発信や歴史継承等、次世代へウチナーネットワークを安定的に継承するため、コンシェルジュ機能を強化する。

また、子弟留学生受入れや、国内外と県内の若者同士の交流を促進し、ウチナーネットワークを担う次世代の人材を育成する。

2　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和6年度 計画 当初予算額	計画 事業内容	実績 決算額	実績 事業内容	備考
次世代ウチナーネットワーク育成事業	83,467	1　次世代ウチナーネットワーク育成事業	81,243	1　次世代ウチナーネットワーク育成事業	最終予算額 82,503 執行率 98.5% 不用額 1,260
	14,708	⑴　ウチナージュニアスタディー事業 ・海外県系人子弟と県内外の中高生を対象に1週間の日程で沖縄の自然や文化、歴史等の体験学習を実施する。	15,520	⑴　ウチナージュニアスタディー事業 ・県系子弟が対面で、県内中高生と交流することができた。 海外参加者11名 県内・国内参加者17名	最終予算額 15,623 不用額 103
	60,472	⑵　ウチナーネットワーク継承基盤構築事業 ・ウチナーネットワークコンシェルジュ運営 ・留学生受入業務 沖縄県出身移住者子弟及びアジア諸国等海外留学生の受入：10名以内	58,063	⑵　ウチナーネットワーク継承基盤構築事業 ・ウチナーネットワークコンシェルジュ運営業務 来所者 966 名 相談件数 198 件（国内 133 件、海外 65 件） ・留学生受入業務 沖縄県出身移住者子弟9名 アジア諸国等海外留学生1名	最終予算額 58,732 不用額 669

	4,121	⑶　友愛交流構築事業 ・【兵庫県】本県と兵庫県の青年が11月に沖縄県で、２月に兵庫県で相互交流を行う。参加人数はそれぞれ15名程度。 ・【福島県】１月から２月にかけて、福島県からの雪だるま親善大使の受入れや、本県から福島県へのさとうきび親善大使の派遣を実施する。*大使は共に小学６年生	4,349	⑶　友愛交流構築事業 ・【兵庫県】11月に沖縄県で自然体験や歴史を学ぶプログラムを実施し、２月に兵庫県で雪体験や災害・防災を学ぶプログラムを実施し、本プログラム通じて相互の交流を深めた。（本県からの参加者：11月９名、２月８名） ・【福島県】沖縄福島両県の小学生が相互の県を訪問し、学校訪問や三役表敬等の交流プログラムを通じて両県の交流を深めた。	最終予算額 4,349 不用額 0
	4,166	⑷　その他、事務費	3,311	⑷　その他、事務費	最終予算額 3,799 不用額 488

３　事業の効果/課題

⑴　ウチナージュニアスタディー事業

効果：　沖縄県の海外移住者子弟を本県に招待し、県内の同世代の青少年と生活を共にしながら沖縄の歴史や文化等を学ぶことにより、県外移住者子弟の母県・沖縄への理解と絆を深めるとともに世界のウチナーネットワークを担う次世代の人材育成につながることが期待できる。実際、本事業のＯＢＯＧの中には、事業実施期間の一時的な交流にとどまらず、継続的かつ多面的な交流につながっているケースもあり、ウチナーネットワークの継承・発展に寄与している。

課題：　県内外参加者については自己推薦及び個人応募となったため、幅広く周知できる方法を検討する必要がある。また、海外参加者については、県人会の規模に関わらず大小様々な県人会から参加を促すことによってウチナーネットワークの拡充を図る。また、本事業へのＯＢＯＧの協力体制をより工夫することで、主体的なウチナーネットワーク継承に繋がるよう働きかけを行う必要がある。

⑵　ウチナーネットワーク継承基盤構築事業

効果：　世界に約 42 万人いるといわれる県系人を中心とした世界のウチナーネットワークを安定的に継承することで、文化、経済、観光等も含めた多元的な交流の促進につながることが期待できる。実際、子弟等留学生のＯＢＯＧの中には、各国の県人会等で中心的な役割を担っている者や、琉舞教室や三線工房等を開設している者などもおり、ウチナーネットワークの継承・発展に寄与している。

課題：　海外では県系人の世代交代が進み、沖縄への関心や郷土への愛着が薄れていることが懸念されている。県内においても、本県が移民県であり、かつて困難な時代に海外県系人に支援された歴史があるということが十分県民に伝わっていない現状もあり、次世代へ安定的にウチナーネットワークが継承されるかが課題である。

⑶　友愛交流構築事業

効果：　兵庫県とは青年交流、福島県とは児童交流を行っており、互いの県が持つ文化や歴史等を同世代間で一緒に学ぶことで、参加者同士の交流が深まるだけでなく、相互理解の促進が期待できる。特に、兵庫県との交流事業においては定期的に連絡をとっているＯＢＯＧがいることや、毎年キャンプ期間中にＯＢＯＧも参加する場面があるなど、事業実施時だけの一時の交流とならず、長く交流が続いている。

課題：　両県との事業はどちらも互いの県に対する理解を深めることだけでなく、次世代の育成も目的としているが、特に兵庫県との交流事業では参加者が定員に満たない現状があり、若者世代への認知度の向上が課題である。現時点ではＳＮＳなどを活用した広報活動も行っているが、広報活動と並行して、若者が参加したいと思えるようなプログラム内容に変更していくなどの取組が必要である。

基　本　項　目：誇りある豊かさ

実　施　項　目：ウチナーネットワークの継承・発展、多文化共生社会の構築

重点施策事業名：多文化共生推進事業（継続）

事　業　期　間：平成 26 年度～

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　交流推進課

1　事業の目的・内容

在住外国人が安全して暮らせる多文化共生型社会を構築するため、県民の意識啓発等を図る。

2　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和6年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
多文化共生推進事業	6,185	1　多文化共生推進調査事業 ・「おきなわ多文化共生推進指針」のに基づき、外国人向け法律相談会を開催するとともに、外国人の生活支援ハンドブックを作成することで、多文化共生に関連した取組を推進する。	5,081	1　多文化共生推進調査事業 ・離島地域において、外国人向け無料法律相談会を開催した。 ・在住外国人向けに生活支援ハンドブックを作成し、多文化共生社会の地域づくりを推進した。	最終予算額 5,732 執行率 88.6% 不用額 651

3　事業の効果/課題

⑴　多文化共生推進調査事業

効果：　外国人向け無料法律相談の実施、生活支援ハンドブックの作成によって、多文化共生社会の地域づくりが推進された。

課題：　外国人を取りまく生活面等での課題多岐にわたることから、引き続き各種施策を通して多文化共生社会の地域づくりを推進していく必要がある。

基　本　項　目：誇りある豊かさ

実　施　項　目：ウチナーネットワークの継承・発展、多文化共生社会の構築

重点施策事業名：ウチナーネットワーク拡充支援プロジェクト（新規）

事　業　期　間：令和６年度～

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　交流推進課

１　事業の目的・内容

世界に広がるウチナーネットワークの強化や交流促進を図るため、県人会サミットを開催し、海外県人会と本県の相互交流や連携を深める。

また、次世代を担う子ども達に向けた学習コンテンツの発信、伝統芸能文化を通じた県人会活動の支援し、ウチナーネットワークの構築を促進する。

２　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和６年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
ウチナーネットワーク拡充支援プロジェクト	85,617	1　ウチナーネットワーク拡充支援プロジェクト	58,095	1　ウチナーネットワーク拡充支援プロジェクト	最終予算額 115,617 執行率 50.2% 翌年度繰越額 30,000 不用額 27,522
	19,906	⑴　県人会サミット開催事業 ・本県と各県人会が一堂に会し、現状の課題解決や今後のウチナーネットワークの持続的な発展に資する取り組みについて検討するため、意見交換を行う場を創出する。	10,522	⑴　県人会サミット開催事業 ・北米の沖縄県人会を対象に、現状の課題解決や今後のウチナーネットワークの継承・発展に向けて意見交換を行うための準備を行った。	最終予算額 43,002 翌年度繰越額 23,096 不用額 9,384
	4,563	⑵　次世代ウチナーンチュ育成事業（学習コンテンツ） ・各国・地域の児	4,563	⑵　次世代ウチナーンチュ育成事業（学習コンテンツ） ・各国・地域の児	最終予算額 4,563 翌年度繰越額 0 不用額

		童の県系人子弟を対象とし、沖縄の移民の歴史、ルーツ、自然、文化、地理等の学習するためのコンテンツを作成する。		童の県系人子弟を対象とし、沖縄の歴史、ルーツ、自然、文化、地理の５つをテーマとした動画コンテンツを作成した。	0
	27,361	⑶　海外県人会活動支援事業 ・海外県人会等のイベントを通じて、文化、経済、平和等の交流を促進するための支援を行い、新たなネットワーク構築や県人会の活性化を図る。	19,823	⑶　海外県人会活動支援事業 ・３つの海外県人会に対する支援を行った。 支援先：①バンクーバー沖縄友愛会 ②フランス沖縄県人会 ③ゴールドコースト沖縄県人会	最終予算額 22,294 翌年度繰越額 0 不用額 2,471
	12,080	⑷　国内交流促進事業 ・沖縄県内の中学生を長野県に派遣し、歴史（移民）、自然、文化学習等を行うことで長野県についての理解を深めるとともに、長野県内の中学生と交流を行う。	5,999	⑷　国内交流促進事業 ・沖縄県内の中学生16名を長野県に派遣し、歴史（移民）、自然、文化学習を行い、長野県内の中学生と交流を行った。	最終予算額 12,080 翌年度繰越額 0 不用額 6,081
	5,000	⑸　南米キャラバン ・第７回世界のウチナーンチュ大会の成果を踏まえ、海外県人会へ慰労訪問し現地のニーズや要望を聴取するともに次世代を担う若者ウチナーンチュ等と経済面	9,070	⑸　南米キャラバン ・ボリビア・ペルーを訪問し、記念式典の参加、県人会訪問、県系企業等関係施設の訪問、交流会を行った。	最終予算額 9,070 翌年度繰越額 0 不用額 0

		も含めた交流を実施する。			
	0	⑹　バンクーバー沖縄県友愛会50周年及びカナダ沖縄県人会移民125周年記念連携交流事業 ・バンクーバー縄友愛会と連携して県系人や県系子弟に限らず広く沖縄の伝統芸能を伝える交流事業を実施する。	997	⑹　バンクーバー沖縄県友愛会50周年及びカナダ沖縄県人会移民125周年記念連携交流事業 ・バンクーバー沖縄友愛会50周年及びカナダ沖縄県移民125周年記念式典に向けて、伝統芸能指導員を派遣し、交流事業を行った。	最終予算額 997 翌年度繰越額 0 不用額 0
	16,707	⑺　その他、事務費等	7,121	⑺　その他、事務費等	最終予算額 23,611 翌年度繰越額 6,904 不用額 9,586

3　事業の効果/課題

⑴　県人会サミット開催事業

効果：　北米で活動する県人会が一同に集まる機会を設けることで、これまで交流のなかった県人会同士の新たな繋がりの創設や、北米で活動する県人会同士の連携強化の機会となった。また、グループディスカッションにおいて共通課題を議論したことで、その解決策を互いに共有・新たに提案し、今後の県人会活動の促進につなげることができた。

課題：　サミットにおいては、本県の新たな事業の創設や第８回世界のウチナーンチュ大会の企画提案があり、これらの事業化について検討を要する。

⑵　次世代ウチナーンチュ育成事業（学習コンテンツ）

効果：　各国・地域の次世代を担う県系人子弟を対象とした、沖縄の移民の歴史、ルーツ、自然、文化、地理等の学習コンテンツを作成し、若い世代が気軽に学べる機会を創出することで、沖縄への関心や繋がりを深め、世界に広がるウチナーネットワークへの理解促進に寄与した。

課題：　作成した動画コンテンツを他事業と連携して活用するなど、多くの県系子弟に利用してもらうよう働きかける必要がある。

⑶　海外県人会活動支援事業

効果：　海外県人会同士の横連携や海外県人会とウチナー民間大使との連携、海外と県内の国際交流団体の連携など多様な連携促進を図る取り組みに対して支援を行うことで、相互の絆を深めるとともに、ウチナーネットワークの拡充につながった。

課題：　海外県人会、ウチナー民間大使、国際交流団体等の連携を図るためには、連絡体制の強化及び関係構築が必要となるため、定期的に相互に意見交換を行う場を創出する必要がある。

⑷　国内交流促進事業

効果：　県内の中学生を長野県へ派遣し、長野県の自然や歴史、文化等を学んだり、長野県内の中学生と交流したりすることで、長野県への愛着を醸成することができた。また、沖縄と長野の異なる移民の歴史、そして、それぞれの歴史が現在にもたらした影響等を学ぶことができた。

課題：　今回の交流が一時的なものとならないよう、交流を続けることができる場や、他事業との連携を図ることで、生徒たちが継続して学び続けることができる環境等を創出する必要がある。

⑸　南米キャラバン

効果：　海外で活躍する県系人の功績をたたえるとともに、海外県人会へ慰労訪問し現地のニーズや要望を聴取することで、海外県人会の現状や課題を把握することができた。また、現地での交流を通じてウチナーネットワークの強化につながった。

課題：　海外における県系人の世代交代が進み、沖縄への関心や郷土への愛着が薄れていることが懸念されているため、若い世代との交流を継続的に行うとともに、次世代のウチナーネットワークの担い手を育成する必要がある。

⑹　バンクーバー沖縄県友愛会 50 周年及びカナダ沖縄県人会移民 125 周年記念連携交流事業

効果：　バンクーバー沖縄友愛会と連携して、県系人や県系子弟に限らず広く沖縄の伝統芸能を伝えるワークショップや芸能披露を通じた交流事業を実施することで、ウチナーネットワークの継承と発展に寄与した。

課題：　芸能指導者が帰国した後も現地で継続的に文化芸能活動が実施できるような基盤作りを行う必要がある。

基　本　項　目：誇りある豊かさ

実　施　項　目：ウチナーネットワークの継承・発展、多文化共生社会の構築

重点施策事業名：新・地域間国際交流（協力）推進事業（新規）

事　業　期　間：令和６年度～

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　交流推進課

１　事業の目的・内容

海外姉妹都市との地域間交流を深めるため、エイサーやスポーツを通じた親善事業や経済発展につながる技術交流等を推進する。また、新たな地域（欧州、オセアニア等）との交流や姉妹都市の締結など、地域外交を見据え、芸術や伝統工芸等の多分野を通じた交流事業を実施する。

２　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和６年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
新・地域間国際交流（協力）推進事業	34,456	1　新・地域間国際交流(協力)推進事業 ・ボリビア、福建省とのエイサーやスポーツを通じた親善事業や技術交流。 ・欧州、アジア、オセアニア等との交流や姉妹都市締結などに向けた多分野の交流。	19,905	1　新・地域間国際交流(協力)推進事業 ・福建省へのエイサー指導者派遣、大学エイサー大会へのエイサー団体派遣、並びに学生招聘等を実施した。 ・南米での食文化及びスポーツを通じた交流、済州道との友好協力都市協定を記念した文化交流イベントを開催した。	最終予算額 20,860 執行率 95.4% 不用額 955

３　事業の効果/課題

⑴　新・地域間国際交流（協力）推進事業

効果：①　姉妹都市である福建省で第 10 回大学エイサー大会が開催されるにあたり、福建省へのエイサー講師派遣、大会優勝チームの沖縄招聘などの文化交流を実施し、互いの絆を深めることができた。

②　新たな地域との交流ではアルゼンチンなど県系人も多い地域で沖縄料理や空手を通した交流を実施し、若い世代も含めて沖縄への関心・繋がりを深めることができた。また、韓国・済州特別自治道との友好協力都市協定締結を記念して、相互の文化芸能及び食を披露するイベントを開催し、県民等が両地域の文化に触れる機会を創出した。

課題：①　姉妹都市の中でも交流頻度に濃淡があり、現地から交流実施を望む声も届いているため、これら地域との交流機会創出に取り組む必要がある。

②　新たな地域との交流に関しては、将来的に平和構築や経済交流に繋がるかなど、多様な視点から交流地域の検討を進める必要がある。

基　本　項　目：誇りある豊かさ

実　施　項　目：ウチナーネットワークの継承・発展、多文化共生社会の構築

重点施策事業名：人材交流を中心とした新事業・共創ネットワーク事業（新規）

事　業　期　間：令和６年度～

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　交流推進課

１　事業の目的・内容

海外県人会やＪＩＣＡ等の関係機関と連携し、海外子弟留学生や県内企業等の国際交流の発展に向けた支援を実施する。また、南米のウチナーネットワークの構築や経済交流等の発展に向けた調査等を実施する。

２　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和６年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
人材交流を中心とした新事業・共創ネットワーク事業	24,001	１　人材交流を中心とした新事業・共創ネットワーク事業	24,510	１　人材交流を中心とした新事業・共創ネットワーク事業	最終予算額 24,628 執行率 99.5% 不用額 118
	7,139	⑴　新事業・共創ネットワーク事業 ・人材育成プログラム（ワークショップ）の実施委託、県内企業の技術を活用した人材交流・経済交流の実施委託	8,929	⑴　新事業・共創ネットワーク事業 ・人材育成プログラム（ワークショップ）の実施委託、県内企業の技術を活用した人材交流・経済交流の実施委託	最終予算額 8,929
	13,592	⑵　南米ネットワーク発展可能性調査事業 ・南米における連絡窓口機能の設置に向けた現地調査の委託	13,589	⑵　南米ネットワーク発展可能性調査事業 ・南米における連絡窓口機能の設置に向けた現地調査の委託	最終予算額 13,589 不用額 3
	3,270	⑶　その他事務費	1,992	⑶　その他事務費	最終予算額 2,110

					不用額 115

3　事業の効果/課題

⑴　新事業・共創ネットワーク事業

効果：　在ボリビアの県系人を中心とした現地の若い世代を対象に、ビジネス知識や企業マインド醸成のためのワークショップや、県内企業の技術者と現地若者との技術交流のため、協働してオキナワ移住地内の道路整備のデモンストレーションを実施することで、経済を基軸とした交流活動の促進につながった。

課題：　県内企業と海外県系人の経済交流の自走のため、引き続き取り組む必要がある。

⑵　南米ネットワーク発展可能性調査事業

効果：　南米各国（ブラジル、アルゼンチン、ボリビア、ペルー）を対象にウチナーネットワークの現状及び今後の展望を調査することで、現地ニーズ及び南米連絡事務所に求められる役割を整理することができた。

課題：　沖縄県南米連絡事務所の設置に向け、現地で活動する職員の身分や事務所の形態について、法的要件等整備のため、引き続き調査を行う必要がある。

基　本　項　目：誇りある豊かさ

実　施　項　目：心豊かで、安全・安心に暮らせる島づくり

重点施策事業名：マリンレジャー事故防止調査対策事業（継続）

事　業　期　間：令和５年度～

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　観光振興課

１　事業の目的・内容

海の安全マップシステムを構築するとともに、観光客や事業者に対し、事故情報やマリンレジャーに関する正しい知識等を周知することにより、水難事故の未然防止を図る。

２　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和６年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
マリンレジャー事故防止調査対策事業	116,161	１　マリンレジャー事故防止調査対策事業 ・観光関連事業者等へ海の安全啓発ツールの設置協力を依頼し、観光客へ周知啓発を図る。 ・ライフセーバー等の巡回により、観光客への注意喚起を沖縄本島、宮古圏域、八重山圏域で行う。 ・マリンレジャー事業者を対象とした水難事故防止に向けた安全対策に関する意見交換会を行う。 ・水難事故が多発している自然海岸において、要因分析のため、海域調査を行う。	116,161	１　マリンレジャー事故防止調査対策事業 ・観光関連事業者等へ海の安全啓発ツールの設置協力を依頼し、観光客へ周知啓発を図った。 ・ライフセーバー等の巡回により、観光客への注意喚起を沖縄本島、宮古及び八重山圏域で行った。 （延べ 5,089 回開催、29,387 人） ・マリンレジャー事業者を対象とした水難事故防止に向けた安全対策に関する意見交換会を行った。 ・水難事故が多発している自然海岸において、要因分析のため、海域調査を行った。	最終予算額 116,161 執行率 100.0% 不用額 0

３　事業の効果/課題

⑴　マリンレジャー事故防止調査対策事業

効果：　県内各空港、ホテル及びレンタカー等で海の安全啓発ツールの周知啓発をするとともに、水難事故が多発している自然海岸でライフガードが巡回を通じて観光客に注意喚起を行うことで、水難事故防止と安全対策の意識啓発につながった。

課題：　県内水難事故全体の７割が自然海岸で発生しているが、常駐のライフセーバー等の監視員がいないため、事故発生時の初動対応や連絡体制に課題がある。また、令和６年度は直行便が増えたことで、外国人観光客の水難事故が増加している。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：離島・過疎地域の持続可能な地域づくり

重点施策事業名：離島観光活性化促進事業（継続）

事　業　期　間：平成 24 年度～令和 13 年度

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　観光振興課

1　事業の目的・内容

離島観光振興を図るため、国内チャーター便支援やプロモーション等を行い、離島誘客を促進する。

2　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和6年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
離島観光活性化促進事業	102,888		102,524		☆ 最終予算額 102,888 執行率 99.6% 不用額 364
	2,400	1　離島航空路開設 ・国内チャーター便支援	954	1　離島航空路開設 ・国内チャーター便支援を7便実施した。	最終予算額 954 不用額 0
	48,603	2　離島観光プロモーション ・離島観光の全般的な魅力の発信や航空会社と連携した離島情報のプロモーション等	50,048	2　離島観光プロモーション ・Ｗｅｂや新聞、テレビ等各種媒体を活用し、多方面から離島路線の認知度向上及び旅行先としての魅力を訴求し、離島への来訪促進を図った。 （Ｗｅｂサイト「沖縄しまさんぽ」ＰＶ数及びInstagramインプ	最終予算額 50,049 不用額 1

				レッション数： 3,320,238）	
	50,000	３　離島観光基盤強化 ・主要離島地域（宮古、八重山及び久米島）の観光協会が主体となった地域プロモーション	49,743	３　離島観光基盤強化 ・宮古、八重山及び久米島観光協会を主体に、離島観光の旬な情報発信、県外イベント等において離島魅力のＰＲを実施した。 （プロモーション実施数：計 38 件）	最終予算額 50,000 不用額 257
	1,885	４　事務費 ・旅費	1,779	４　事務費 ・旅費	最終予算額 1,885 不用額 106

３　事業の効果/課題

⑴　離島観光活性化促進事業

効果：　離島へのチャーター便及び定期便の就航促進や離島観光プロモーション、離島観光基盤強化等を実施し、観光客を本島のみならず離島へ周遊させることにより、滞在日数の延伸促進及び一人当たりの観光消費額の増加につながった。

課題：　チャーター便の財政支援（補助金）の対象期間については、委託業務の決算の締め切りに合わせて短かったことから、今後は、補助対象期間の見直しが必要である。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：しまくとぅばアーカイブ事業（継続）

事　業　期　間：令和４年度～令和８年度

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　文化振興課しまくとぅば普及推進室

１　事業の目的・内容

沖縄文化の基層である「しまくとぅば」を次世代へ継承するため、しまくとぅばのアーカイブ化の取組を行う。

２　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和６年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
しまくとぅばアーカイブ事業	22,232	1　しまくとぅばアーカイブ事業 ・各地域ごとの文法的事項が織り込まれた文法調査票の収集 ・文法調査票と連動した教材の作成 ・教科書に掲載されている歌、文学的文章の収録 ・自然談話の収録	20,361	1　しまくとぅばアーカイブ事業 ・文法調査票 44 地域の収集を行った。 ・教材ひな形（小学校高学年）１セットの作成を行った。 ・教科書掲載の歌、文学的文章 50 地域の収録を行った。 ・自然談話２話の収録を行った。	☆ 最終予算額 22,232 執行率 91.6% 不用額 1,871

３　事業の効果/課題

⑴　しまくとぅばアーカイブ事業

効果：　文法調査票の収集数、教科書掲載の曲数等、委託事業の仕様で求めた成果を全て達成し、音声資料や映像資料等が十分でない地域のしまくとぅばアーカイブ化の取組を行った。

課題：　調査対象地域によっては、予定していた地域の話者が高齢で対応が困難で、一部地域を変更して実施した地点もある。

　そのため、地域の話者が減少しつつある現状の中で、いかに県、受託先の琉球大学、調査対象地域の話者と綿密な連携を取りながら、迅速な調査を行えるかが課題となっている。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：しまくとぅば普及継承事業（継続）

事　業　期　間：平成 26 年度～

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　文化振興課しまくとぅば普及推進室

1　事業の目的・内容

沖縄文化の基層である「しまくとぅば」を普及継承するため、県民大会の開催や、平成 29 年度に設置した「しまくとぅば普及センター」を中心とした各地域の普及人材育成等を行う。

2　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和6年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
しまくとぅば普及継承事業	74,197	1　しまくとぅば普及継承事業 ・県民大会を開催する。 ・しまくとぅば読本を作成し、県内小中学生へ配布する。 ・しまくとぅばの普及活動を行う民間団体に対し、補助金を交付する。 ・県内で人材養成講座を開催する。	71,073	1　しまくとぅば普及継承事業 ・県民大会第一部、県民大会第二部、関連イベント及び動画配信の実施を通じて気運醸成を行った。 ・県内の小学校261校、中学校151校、特別支援学校17校へしまくとぅば読本（※PDF版）配布を行った。 ・しまくとぅば普及活動を行う民間団体に対して、合計８件･7,393千円の補助金を交付した。 ・しまくとぅば講師養成講座を開催。	☆ 最終予算額 74,197 執行率 95.8% 不用額 3,124

		・しまくとぅば普及センターの運営を行う。 ・しまくとぅば県民意識調査を実施する。		合格者数 宮古後期　:14名 本島中南部:42名 合　　計　:56名 ・沖縄県文化協会へしまくとぅば普及センターの運営を委託し、各地域におけるしまくとぅば普及継承活動や県民運動を推進した。 ・しまくとぅばに関する実態を把握し、しまくとぅばの普及における今後の課題と効果的な普及方法の検討に向けた調査を実施した。	

３　事業の効果/課題

⑴　しまくとぅば普及継承事業

効果：　幅広い世代へ「しまくとぅば」に触れる機会を提供することで、「しまくとぅば」普及の気運醸成を図った。
しまくとぅば普及センターを中心に、市町村や地域の団体が行うしまくとぅば講座への支援等を行った。

課題：　令和６年度のしまくとぅば県民意識調査結果によると、県民の「しまくとぅばの使用頻度」は上昇している一方で、普及継承の取り組みについての認知度は低く、「何も知らない」との回答が 50.4%であった。
　この結果を踏まえ、各地域の普及団体等と連携し、人材養成等の取組、しまくとぅばの普及に取り組む団体への支援など、普及に向けた取組を引き続き実施していく。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：沖縄県文化振興事業等推進費（継続）

事　業　期　間：平成 26 年度～

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　文化振興課

1　事業の目的・内容

（公財）沖縄県文化振興会が実施する伝統芸能公演支援事業やおきなわ文学賞等の文化振興事業に要する経費について補助を行う。

2　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和6年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
沖縄県文化振興事業等推進費	54,577	1　沖縄県文化振興事業等推進費・（公財）沖縄県文化振興会の文化振興事業等に要する経費に対し補助を行う。	54,469	1　沖縄県文化振興事業等推進費・（公財）沖縄県文化振興会が実施する伝統芸能公演支援事業やおきなわ文学賞等の文化振興事業に要する経費について補助を行った。	最終予算額 54,577 執行率 99.8% 不用額 108

3　事業の効果/課題

⑴　沖縄県文化振興事業等推進費

効果：　補助を通じ、沖縄県文化振興会が行う文化事業が円滑に実施されることにより、文化、芸術、学術の普及、情報の提供、調査研究、交流等を図り、沖縄県民の主体的、創造的な文化活動の支援が行われた。

課題：　引き続き、同会の事業費等に対し補助を行い、沖縄県民の主体的、創造的な文化活動の持続的発展を推進する必要がある。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：沖縄食文化保存普及継承事業

事　業　期　間：令和４年度～令和８年度

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　文化振興課

１　事業の目的・内容

「沖縄の伝統的な食文化の普及推進計画（沖縄食文化創生プロジェクト）第２期計画」に基づき、琉球料理を基盤とする沖縄の伝統的な食文化を保存するための担い手を育成し、同時に、伝統的な食文化の形成された過程や魅力等をわかりやすく情報発信し、県民や観光客への普及・継承を推進する。

２　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和６年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
沖縄食文化保存普及継承事業	18,348	1　沖縄食文化保存普及継承事業 ・沖縄の伝統的な食文化の保存・普及・継承に向け、琉球料理伝承人の育成及び出前講座モデル事業、「琉球料理が味わえる店」店舗認証の実施等を行う。	17,073	1　沖縄食文化保存普及継承事業 ・沖縄の伝統的な食文化の保存・普及・継承に向け、琉球料理伝承人の育成及び出前講座モデル事業、「琉球料理が味わえる店」店舗認証の実施等を行った。	☆ 最終予算額 18,348 執行率 93.1% 不用額 1,275

３　事業の効果/課題

⑴　沖縄食文化保存普及継承事業

効果：　沖縄の伝統的な食文化の担い手である琉球料理伝承人に対し知識及び技能向上を図るフォローアップ講座を３回実施したことに加え、新たに15 人を琉球料理伝承人として認証した。琉球料理伝承人を活用した出前講座を県内外の地域住民、食関連事業者、修学旅行関係者及び学校関係者向けに各１回、合計５回実施した。また、「琉球料理が味わえる店」として 30 件の店舗認証を行った。

課題：　引き続き、若い世代を含む県民、観光客に向け、沖縄の伝統的な食文化について普及促進を図り、認知度向上へ繋げる必要がある。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：琉球歴史文化コンテンツ創出支援事業（継続）

事　業　期　間：令和４年度～令和８年度

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　文化振興課

１　事業の目的・内容

琉球の歴史・文化資源をテーマとした新たなコンテンツを制作する取組について事業実施者への支援（補助）や、琉球の歴史文化を活用し、文化の産業化に向けた取組をPRする講演会等を開催する。

２　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和６年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
琉球歴史文化コンテンツ創出支援事業	37,852	1　琉球歴史文化コンテンツ創出支援事業 ・新たな産業の創出に向け、文化芸術団体等が、文化資源を活用し様々な産業分野と連携する取組を行う。 ・文化資源を活用し様々な産業分野と連携する文化芸術団体に対して補助金を交付する。	37,190	1　琉球歴史文化コンテンツ創出支援事業 ・新たな産業の創出に向け、文化芸術団体等が、文化資源を活用し様々な産業分野と連携する取組を行った。 ・文化資源を活用し様々な産業分野と連携する文化芸術団体に対して補助金を８団体に交付した。	☆ 最終予算額 37,852 執行率 98.3% 不用額 662

３　事業の効果/課題

⑴　琉球歴史文化コンテンツ創出支援事業

効果：　県内の文化芸術団体等を対象として、歴史文化コンテンツを制作する取組８件を採択し、支援した。これらの支援により、本県の文化芸術の産業化や文化芸術に係るビジネスを支える環境整備が図られた。

課題：　新たなコンテンツ制作に関する周知及び過去に作成されたコンテンツの認知度向上が課題。さらなる認知度向上を図るためには、他部局とも共同し、より広い分野へアプローチできるようにする必要がある。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：沖縄文化芸術の創造発信支援事業（継続）

事　業　期　間：令和４年度～令和８年度

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　文化振興課

１　事業の目的・内容

本県の多様で豊かな地域の伝統芸能や文化芸術等の文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を図るため、文化専門人材の目利きのもと、県内文化芸術団体等による取組を公募、審査、採択し、支援を行う。

２　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和６年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
沖縄文化芸術の創造発信支援事業	85,000	1　沖縄文化芸術の創造発信支援事業 ・県内文化芸術活動の持続的発展に資する取組を公募、審査、採択し、支援を行う。	81,771	1　沖縄文化芸術の創造発信支援事業 ・県内文化芸術活動の持続的発展に資する取組を公募、審査、採択し、支援を行った。	☆ 最終予算額 85,000 執行率 96.2% 不用額 3,229

３　事業の効果/課題

⑴　沖縄文化芸術の創造発信支援事業

効果：　県内の文化関係団体等を対象として①文化芸術団体等の組織力向上・基盤強化に資する取組４件、②文化芸術を次代に引き継ぐ新たな創造発信を伴う取組９件、③文化芸術を通じて地域の諸課題解決や活性化の促進等に寄与する取組 10 件の合計 23 件を採択し支援した。これらの支援により、本県の伝統芸能や文化芸術といった文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展が図られた。

課題：　引き続き、関係団体等と意見交換を行いながら、文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を推進する必要がある。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：琉球王国文化遺産集積・再興事業（継続）

事　業　期　間：平成 27 年度～令和 13 年度

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　文化振興課（博物館・美術館）

1　事業の目的・内容

琉球王国時代から残る文化遺産等から得られる学術的知見や科学分析等の情報を集積するとともに、王国時代にあった手わざを現代の最高水準の手わざで復元を行う。また、これらの模造復元品を通して、世界に誇る沖縄の手わざの力を内外へ発信し、琉球王国文化の体系化を図るとともに、文化観光・研究拠点としての沖縄をアピールする。

2　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和6年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
琉球王国文化遺産集積・再興事業	76,340	1　琉球王国文化遺産集積・再興事業 ・琉球王国時代の文化遺産に関する有識者からなる監修者会議等を開催し、模造復元のための科学分析、材料調達、試作及びそれらから得られた知見の発信を行う。	73,870	1　琉球王国文化遺産集積・再興事業 ・琉球王国時代の文化遺産に関する有識者からなる監修者会議等を開催し、模造復元のための科学分析、材料調達、試作を行った。また、新知見発信のための報告会を開き、情報発信のための SNS の立ち上げと事業ロゴの作成等を行った。	☆ 最終予算額 76,340 執行率 96.8% 不用額 2,470

3　事業の効果/課題

⑴　琉球王国文化遺産集積・再興事業

効果：　監修者会議等による有識者からの意見等を反映して科学分析を実施し、それらのデータをもとに材料調達や試作等を行ったことをはじめ、本事業の調査研究・取組内容に関する報告会や SNS・ロゴの作成を実施すること等により、琉球王国文化の周知・手わざの魅力の発信の取組を推進することができた。

課題：　科学分析及び試作を通して、現在では使用されていない技術や道具・材料が用いられていることが判明したため、失われた技術を解き明かすためのより詳細な試作を行う必要がある。また、模造復元の製作工程等を広く紹介するためのコンテンツ作りを行う必要がある。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：沖縄県空手振興事業（継続）

事　業　期　間：平成 29 年度～令和 13 年度

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　空手振興課

１　事業の目的・内容

沖縄空手を保存・継承・発展させるため、「沖縄空手振興ビジョン」及び同「ロードマップ」に基づいた施策を実施する。

２　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和６年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
沖縄県空手振興事業	115,000	1　沖縄県空手振興事業	116,057	1　沖縄県空手振興事業	☆ 最終予算額 119,185 執行率 97.4% 不用額 3,128
	15,136	(1)沖縄空手流派指導体制構築事業 ・審判講習会の開催 ・若手指導者等渡航費助成	9,928	(1)沖縄空手流派指導体制構築事業 ・審判講習会の開催 ・若手指導者等渡航費助成	最終予算額 12,158 不用額 2,230
	15,000	(2)沖縄空手イベント開催事業 ・空手の日奉納演武、記念演武祭の開催	15,000	(2)沖縄空手イベント開催事業 ・空手の日奉納演武、記念演武祭の開催	最終予算額 15,000 不用額 0
	10,049	(3)沖縄空手県内普及促進事業 ・空手指導者を県内各地に派遣	10,049	(3)沖縄空手県内普及促進事業 ・空手指導者を県内各地に派遣	最終予算額 10,049 不用額 0
	11,545	(4)沖縄空手案内センター事業 ・沖縄空手案内セ	10,358	(4)沖縄空手案内センター事業 ・沖縄空手案内セ	最終予算額 10,585 不用額

		ンターの設置		ンターの設置	227
	21,610	(5)沖縄空手普及・啓発事業 ・国内のイベントへ参加し沖縄空手の周知を実施	29,610	(5)沖縄空手普及・啓発事業 ・国内のイベントへ参加し沖縄空手の周知を実施 ・大阪関西万博の公演に向けた準備	最終予算額 29,610 不用額 0
	10,885	(6)沖縄空手会館ミュージアム事業 ・沖縄空手の資料収集・調査研究 ・企画展・巡回展の実施	10,885	(6)沖縄空手会館ミュージアム事業 ・沖縄空手の資料収集・調査研究 ・企画展・巡回展の実施	最終予算額 10,885 不用額 0
	12,090	(7)聖地・沖縄空手ガイド養成事業 ・沖縄空手専門のガイドの養成	11,676	(7)聖地・沖縄空手ガイド養成事業 ・沖縄空手専門のガイドの養成	最終予算額 12,090 不用額 414
	6,910	(8)沖縄空手次世代道場継承事業 ・空手道場開設の手引書の制作	6,910	(8)沖縄空手次世代道場継承事業 ・空手道場開設の手引書の制作	最終予算額 6,910 不用額 0
	2,000	(9)沖縄空手産業連携構築支援事業 ・ライセンスビジネス等調査検討、商標登録	1,727	(9)沖縄空手産業連携構築支援事業 ・沖縄空手オリジナルキャラクター商品展開に向けた複数デザインの制作、文字（キャラクター名）の商標登録に対する補助	最終予算額 1,727 不用額 0
	9,775	(10)沖縄県空手振興事業における その他事務費	9,914	(10)沖縄県空手振興事業における その他事務費	最終予算額 10,171 不用額 257

3　事業の効果/課題

⑴　沖縄県空手振興事業

効果：　空手の日奉納演武及び記念演武祭を開催するとともに、県内の小中学校や保育園等に空手指導者を派遣するなど、沖縄空手の普及・啓発に取

り組んだ。
　また、沖縄空手会館企画展及び巡回展を開催し、「空手発祥の地・沖縄」の発信力の強化を図った。
　その他、審判講習会の実施や空手道場開設の手引書の制作等に取り組み、空手指導者の育成を図った。
課題：　沖縄空手振興ビジョンに掲げる目指すべき将来像の実現に向けて、引き続き各種施策を実施する必要がある。
　また、県外での「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上が課題となっているため、今後は、多くの集客が見込まれる会場を活用するなど、効果的な周知方法を検討する必要がある。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：沖縄空手世界大会開催事業（継続）

事　業　期　間：平成 29 年度～

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　空手振興課

1　事業の目的・内容

沖縄空手の保存・継承・発展を図るため、次世代を担う空手愛好家を対象とした世界大会を開催し、後継者の育成、国内外における参加者間の交流及び「空手発祥の地・沖縄」で平和の武である沖縄空手の歴史・精神性を学ぶ機会を創出する。

2　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和6年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
沖縄空手世界大会開催事業	100,423	1　沖縄空手世界大会開催事業 ・総会、常任委員会、各種専門部会の開催 ・大会周知イベント実施 ・第2回沖縄空手少年少女世界大会の開催	94,104	1　沖縄空手世界大会開催事業 ・総会、常任委員会、各種専門部会の開催 ・大会3カ月前イベント、1カ月前イベント実施 ・第2回沖縄空手少年少女世界大会の開催	☆ 最終予算額 96,240 執行率 97.8% 不用額 2,136

3　事業の効果/課題

⑴　沖縄空手世界大会開催事業

効果：　令和6年8月に第2回沖縄空手少年少女世界大会を開催し、国内外から前回大会を上回る 1,438 人の参加があり、大会開催を契機に、沖縄空手の技や精神性の継承、将来に渡っての振興・発展に繋がった。

課題：　沖縄空手を保存・継承し将来にわたっての振興を図るため、引き続き世界大会を定期開催していく必要がある。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：沖縄空手ユネスコ登録推進事業（継続）

事　業　期　間：令和元年度～

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　空手振興課

1　事業の目的・内容

沖縄空手を次世代に正しく保存・継承するとともに、「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信するため、沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録に必要な調査・研究及び県民等の気運醸成に向けた取組を実施する。

2　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和6年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
沖縄空手ユネスコ登録推進事業	9,984	1　沖縄空手ユネスコ登録推進事業 ・沖縄空手ユネスコ登録推進協議会学術研究連絡会の開催 ・武術的身体表現に関する民俗学的調査の実施 ・調査結果をとりまとめて報告書を作成	9,554	1　沖縄空手ユネスコ登録推進事業 ・学術研究連絡会（4回）を開催した。 ・武術的身体表現に関する民俗学的調査を実施した。 ・調査結果をとりまとめて報告書を作成した。	最終予算額 9,984 執行率 95.7% 不用額 430

3　事業の効果/課題

⑴　沖縄空手ユネスコ登録推進事業

効果：　沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組の着実な推進が図られた。

課題：　沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録の実現を図るため、民俗学的調査結果を踏まえた広報・啓発の取組を行うなど、引き続き、県民の気運醸成等の取組を推進する必要がある。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：空手ツーリズム受入体制構築事業（継続）

事　業　期　間：令和５年度～令和７年度

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　空手振興課

１　事業の目的・内容

空手を文化観光資源として活用した空手ツーリズムを推進し、国内外の空手愛好家や観光客の受入体制構築に取り組む。

２　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和６年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
空手ツーリズム受入体制構築事業	36,317	1　空手ツーリズム受入体制構築事業 ・空手観光窓口の設置 ・空手を目的として来訪する団体へのおもてなし支援 ・空手観光コンテンツ造成に対する支援	32,799	1　空手ツーリズム受入体制構築事業 ・空手観光窓口を設置し、空手観光商品や空手観光情報を発信 ・空手を目的として来訪する団体に対しておもてなし支援を実施 ・空手観光コンテンツ造成に対する支援を実施	最終予算額 36,317 執行率 90.3% 不用額 3,518

３　事業の効果/課題

⑴　空手ツーリズム受入体制構築事業

効果：　空手ツーリズム専用ホームページを活用したことにより、観光客から空手愛好家まで、幅広い層に対応できる商品等を案内できた。また、造成した空手観光コンテンツに国内外からの観光客等が参加し、沖縄空手の普及・啓発に繋がった。

課題：　空手ツーリズムの推進のため、沖縄空手ガイドの更なる利用促進を図る必要がある。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：しまくとぅばアニメオリジナル事業（新規）

事　業　期　間：令和６年度～令和８年度

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　文化振興課しまくとぅば普及推進室

１　事業の目的・内容

「しまくとぅば」に日常的に触れてもらい、「しまくとぅば」の普及促進を図ることを目的に、若年層をターゲットとした「しまくとぅばアニメオリジナル動画」を制作し、WEB 配信する。

２　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和６年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
しまくとぅばアニメオリジナル事業	10,200	1　しまくとぅばアニメオリジナル事業 ・しまくとぅばアニメ６本以上の制作 ・制作したアニメのプロモーション実施 ・制作したアニメのＳＮＳ配信	10,200	1　しまくとぅばアニメオリジナル事業 ・しまくとぅばアニメ（国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語等）計 11 本制作した。 ・各種 SNS 広告(Youtube,Instagram,Facebook)を実施し、総視聴回数は 38,571 回。 ・しまくとぅば普及センターの YouTube チャンネルに 11 本全て掲載した。	最終予算額 10,200 執行率 100% 不用額 0

３　事業の効果/課題

⑴　しまくとぅばアニメオリジナル事業

効果：　制作本数やプロモーション、配信など仕様で求めた成果を全て達成し、小学生をターゲットとしたアニメコンテンツを配信した。

課題：　シナリオ調整や現地話者によるしまくとぅばの音声収録に想定以上の時間を要し、配信時期が当初計画より２カ月遅れた。実施計画に基づき、迅速かつ円滑に事業者や監修者との調整を行う体制構築が課題。

基　本　項　目：沖縄らしい優しい社会の構築

実　施　項　目：沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展

重点施策事業名：琉球歴史文化芸術興隆事業（新規）

事　業　期　間：令和６年度

部　課　等　名：文化観光スポーツ部　文化振興課

１　事業の目的・内容

文化関連産業とその他の産業を結ぶとともに、沖縄固有の歴史・文化・芸術の継承及び発展に向けた取組を推進する。

２　事業の実績

（単位：千円）

重点施策事業名	令和６年度				備考
	計画		実績		
	当初予算額	事業内容	決算額	事業内容	
琉球歴史文化芸術興隆事業	82,425	1　琉球歴史文化芸術興隆事業 ・文化・芸術の継承及び発展を図るため、県外での沖縄文化のＰＲ、ユネスコ無形文化遺産登録に向けた検討及び「琉球歴史文化の日」を中心とした若年層に向けた芸能公演等を行う。	38,798	1　琉球歴史文化芸術興隆事業 ・文化・芸術の継承及び発展を図るため、県外での沖縄文化のＰＲ、ユネスコ無形文化遺産登録に向けた検討及び「琉球歴史文化の日」を中心とした若年層に向けた芸能公演等を行った。	最終予算額 43,573 執行率 89.0% 不用額 4,775

３　事業の効果/課題

⑴　琉球歴史文化芸術興隆事業

効果：　次世代を担う若年層に向けた芸能公演や県外における沖縄文化のＰＲを行ったことにより、沖縄固有の歴史・文化・芸術の継承及び発展を図られた。

課題：　引き続き、国内外において「沖縄の伝統文化」のＰＲ及び認知度向上につなげる必要がある。